

事務事業名	大学とのネットワーク構築事業				会計	一般会計		事業種別	政策	開始	8	終了	
H27担当課等名	企画課		H27係等名	大学・三遠南信連携係		H26係等名	大学・三遠南信連携係						
基本計画上の位置づけ	政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり										
	施策	81	交流による高付加価値化・国際化の推進										
目的	対象(誰・何を)	飯田市が、知識や情報を得るために必要とする大学										指標名及び単位	26年度数値
	意図(どういう状態にするか)	①様々な大学との連携・交流を通じて、②大学が有する情報や専門的な知見を地域に呼び込み、③飯田の取組との融合を通じて④人材育成、人材誘導、地域振興につなげる。										対象指標 市として交流・連携すべき大学(産業施策分野に関する大学は除く。「学輪IIDA」に参画いただいている30大学)	31大学
	向上させたい上位施策の成果指標	○都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏を除く) ○大学・海外等との「共同」プロジェクトの数(累計)											
目標	種別	指標名及び単位				26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)			
	成果指標	誘致した大学数(フィールドスタディ・インターンシップ等の延数)				18	15	19	20				
	成果指標	誘致した学生数(フィールドスタディ・インターンシップ等の延数)				600	613	600	600				
	定性目標	飯田が必要とする大学との連携(ネットワーク)を推進することで、大学の専門的な知見を地域に呼び込み、地域の取組と融合することで地域課題の解決や取組の高度化を図るとともに、人材育成に寄与する。											
事業概要	<p>◎知のネットワークによる21世紀型戦略的領域づくりを推進するため、様々な大学とのネットワークを構築する。</p> <p>◎学輪IIDAなど様々な大学とのネットワークを通じて大学の専門的な知見を地域に呼び込み、地域の取組と融合することで、リニア将来ビジョンに掲げる地域像の実現に寄与する</p> <p>◎様々な大学と連携した学習・研究・実践活動を通じて、この地域ならではの大学機能の構築を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びの場 飯田」の価値(ブランド)を高めるため、大学生を対象にした充実した学習プログラム(南信州・飯田フィールドスタディ)の実施 ○協定締結大学など様々な大学と連携した、地域課題に関する学習活動や共同研究の展開 ○学輪IIDAのネットワークを活用したモデル的な研究や取組の推進、市民を対象にした学習活動の展開(学輪IIDA全体会・プロジェクト活動) ○旧飯田工業高校の教育的な施設としての後利用に関する検証、可能性調査 ○飯田にとって必要な知見(技術・情報等)を有する大学に関する情報収集・調査及び研究 												
	事業内容						名称			活動指標			
26年度事業内容	1 南信州・飯田フィールドスタディの実施 ○カリキュラムの作成 ○大学への周知・連絡調整 ○受入体制・資料等の整備 ○実践と検証						1 参加者数(大学数・学生数)			1 9大学・113人			
	2 大学連携会議「学輪IIDA」の取組 ○学輪IIDA全体会の開催 ○学輪IIDAプロジェクト活動の展開						2 会議・プロジェクト活動の回数(全体会・プロジェクト)			2 10回			
	3 地域と大学との連携による学習・研究活動 ○豊橋技術科学大学 ○東京農工大学 ○和歌山大学 ○法政大学 ○東京大学 など						3 連携した事業数			3 10事業数			
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足							
事業費計(千円)①		3,229	3,914	3,578	3,709								
国庫支出金													
県支出金													
起債													
その他													
一般財源		3,229	3,914	3,578	3,709								
人件費計(千円)②		14,476		13,946									
正規職員所要時間		4,000		3,900									
臨時職員所要時間		160		0									
総事業費①+②		17,705	3,914	17,524	3,709								
事業内容・目標達成状況の振り返り	南信州・飯田フィールドスタディや、学輪IIDAのプロジェクト活動などを通じて、飯田を訪れる大学研究者や学生は年々増加している。地域と大学が共に学び実践するような取組も、少しずつ成果が見え始めている。大学連携の取組による成果や今後の方向性などについて、学輪IIDA全体会などを通じて共有した。												
改革改善の考え方	①問題点	飯田を「学びの場」として訪れる大学(研究者・学生)が増加傾向にあるが、学習の場を提供するだけでなく、大学の知見を地域づくりに活かしていくような取組を更に推進していくことが重要である。											
	②改革提案	引き続き飯田が必要とする大学との関係を強化しつつ、地域の人材育成や地域振興に寄与するような連携のあり方を追求していくと共に、地域外の人が飯田における大学の研究成果を学ぶ仕組み作りを検討する必要がある。											